

学習内容報告書 フォーマット

学校名	山形県立加茂水産高等学校
授業者	佐藤久哉

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

庄内の海洋文化

1-2. 学年

1年海洋技術科	3年海洋技術科
---------	---------

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

水産海洋基礎	課題研究
--------	------

1-4. 単元の概要

<p>日本人は、海から恵みを受け生きてきた。海は食料を供給する機能を果たし、船を利用した交易と文化の交流が古くから行われ中国や朝鮮との交流は日本の文化の発達に大きく影響した。日本全体に関する記載はあるが山形県庄内の海に関することはあまり知られていない。そこで、地元加茂地区の海洋文化について調査し（課題研究）その内容を1年生の水産海洋基礎の海洋文化の単元に加える。</p> <p>水産海洋基礎 第3節 海と食生活・文化・社会 3-1 海洋文化 (1)海と精神文化 (2)魚食文化 そして (3)山形県庄内の海洋文化を追加する。</p>

1-5. 単元設定の理由・ねらい

<p>海洋文化は「海」によってもたらされており、庄内の海洋文化は北前船によりもたらされたものが多い。加茂地区の神社仏閣の多いことも、北前船により漁業の発展につながり港の賑わい・地域の発展に繋がったことも、すべては海がもたらしたものであり、人々が海との共生により得たものである。海洋文化を学び地域の歴史を知り、地元理解につなげ、海から人々が得ていることについて学ぶ。加茂港がなぜ北前船の寄港地となったのか、北前船が加茂地区にもたらしたもの。なぜ、今はこれだけ衰退してしまったのか、加茂地区の活性化のためには何ができるか考える。</p>
--

1-6. 育みたい資質や能力、態度

<ul style="list-style-type: none">・水産業や海洋関連産業の社会的意義や役割を理解し関連する技術を見に付ける・水産業や海洋関連産業全体を広い視野で捉え課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。・持続可能な漁業や水産関連産業の構築を目指して自ら学び、地域の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。・公共財としての「海」に対する「畏敬の念」
--

1-7. 単元の展開（全 4 時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	3-1 海洋文化 日本の海洋文化概要 (1) 海と精神文化 ・塩と清め ・海と神事	3~4人のグループ編成にする。 ・日本人が海から受けた恩恵について考える ・発表させまとめる ・精神文化・神事について考え発表させる ・塩と清め、神棚、龍神様について考える。 海は命の源・常世の国・船霊祭・龍神様
1	・魚の漢字 (2) 魚食文化 ・魚食の習慣 ・神事	3~4人のグループ編成にする。 ・魚編の漢字を大判用紙に記入させる。 ・黒板に掲示し、不足の魚編の漢字を追加する。 ・魚食文化・習慣について大判用紙に記入させる。 ・各グループ発表し、まとめる。庄内の魚食文化プリント配布し、“あば”“食文化伝道師”等説明する
1	・加工の種類 ・捕鯨文化	3~4人のグループ編成にする。 ・水産物の加工品種類を考える。 ・各グループ発表、板書し不足を追加する ・クジラを分類し名前を大判用紙に記入させる。 ・プリントを配布説明 ・鯨肉の利用図説明 ・捕鯨問題を考え発表・討論会
1	(3) 山形県庄内の海洋文化 北前船について 北前船がもたらした文化 昔の加茂地区と今の加茂地区 加茂地区の活性化	3~4人のグループ編成にする。 ・加茂地区の地図・北前船の資料配布 ・北前船とは何？なぜ加茂港に寄港するようになったか考えさせる ・北前船が加茂地区にもたらしたもの ・過疎化の進む加茂地区、活性化策は？
時数	課題研究 学習活動・内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
68	3年海洋技術科航海系 3名 通年2単位 テーマ 「北前船と加茂地区の海洋文化」 加茂港は日本遺産「荒波を超えた男たちの夢が紡いだ異空間—北前船寄港地・船主集落」に追加認定された。そこで、北前船がもたらした海洋文化について調査し、加茂地区の歴史や魅力について探り、加茂地区活性化運動「加茂グランドデザイン」と連携・協力し地域の活性化に繋げる。	外部連携 郷土史研究家 升川繁敏先生 指導（講義）と資料をいただく。 図書館・水産試験場等にはほとんど資料がなく、また、酒田はあっても加茂地区のものはなく、升川先生の資料によりなんとかまとめることができた。 海洋教育こどもサミット・全国海洋教育サミットポスター発表 加茂港の繁栄期の記録等は貴重なもので、授業に活用できるようにまとめておきたい。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

(3) 山形県庄内の海洋文化

北前船とは何か 北前船が加茂地区にもたらしたものは何か

北前船寄港時と現在の加茂港から今後の加茂地区活性化について考える

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
<p>○庄内の海洋文化について考えさせる。 （どこからどうやって来たのか）</p> <p>○北前船とは何か考えを発表させる。</p> <p>○北前船がなぜ加茂港に寄港したのか質問</p> <p>○北前船は海の総合商社、何を積んでいたか。 加茂港での揚げ荷と積み荷は何</p> <p>○北前船が加茂地区にもたらしたものは何</p> <p>○北前船の衰退の原因は何</p> <p>○今も残る北前船によりもたらされたもの</p> <p>○現在の加茂地区の現状は・原因は</p> <p>○加茂地区の活性化策は</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3～4 人のグループ編成にする。 ・ 各グループ考えさせまとまったら発表させる。 <ul style="list-style-type: none"> ●北前船の名前がでたか ・ 北前船（弁財船）の資料を配布説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ●天領地御城米と河村瑞賢による西廻り航路 ・ 北前船以前の加茂港について説明 <ul style="list-style-type: none"> ●鎌倉時代から交易の港として栄えていた。 ・ 資料配布説明 <ul style="list-style-type: none"> ●江戸中期～明治 20 平均 200 隻/月入港していた ・ 地区の繁栄についてまとめる <ul style="list-style-type: none"> ●鉄道・船舶の近代化・通信網の整備（電信事務） ●北前船衰退後に大きな遺産 漁業の発展・繁栄 ・ 人口推移・漁獲量推移資料配布 ・ 各グループ発表

3. 今回の活動の自己評価

課題研究の生徒3名が4月から7月まで調査し、一般的な北前船に関する内容資料は収集できたが、加茂地区と北前船に関する資料や加茂地区にもたらした文化については資料を探すことが出来なかった。

そこで、元加茂小学校校長で郷土史研究家 升川繁敏 先生に相談し、8月に講義をもらうことができた。升川先生は鶴岡市や大山地区・加茂地区の歴史について研究しており、以前も加茂地区の漁業について調査したときも資料提供していただいた。資料を参考に加茂地区の史跡調査や神社仏閣を廻り、この狭い地域に寺が9か所も残っており、いかに加茂港が繁栄し、人の往来があり、活気があったかを感じることができた。いかに地元のことを知らなかったかを痛感し、加茂地区の歴史を地元の学校で教えていく必要性を強く感じた。また、町興しや活性化にも活用できるのではないかと思う。

4. 今後の課題

加茂地区の歴史、特に海・加茂港に係る部分は資料を整理し、交易の港として栄えた時代、北前船の寄港地として栄えた時代、北洋漁業の先駆けとして栄えた時代の小冊子を作成し、授業や海洋教育の資料として活用できるようにしていきたい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

資料の多くの部分は、郷土史研究家 升川繁敏 先生が収集した資料及び酒田市立資料館所蔵の北前船資料によるものである。

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS明朝、10.5ポイント / マージン：上下端20mm、左右端16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。